

日本の教育の良いところ5選

動画リンク: <https://youtu.be/ksl0CBmOdNQ>

今回は「日本の教育の良いところ5選」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」があります。
後半は少しだけ速く（+20%）なり、漢字に「ふりがな」はありません。
学習にお役立てください。

■自己紹介

私の名前は田中健太です。大学で教育を学び、現在は教育実習生として小学校で実習をしています。今日は、日本の教育の「良いところ」を5つお伝えしたいと思います。日本の学校には、将来社会に出たときに役立つような工夫が多く取り入れられています。私も実習を通して、日本の教育のすばらしさを改めて感じています。
教育実習で小学生に教える立場になって、改めて日本の学校には、子どもたちが社会に出てから役立つような、たくさんの工夫が取り入れられているなと感じています。たとえば、思いやりを育てるための「道徳」という授業があります。道徳の授業では、他の人を大切に、助け合うことが学べます。
また、日本の教育では、基礎学力をしっかりと身につけることも大切にされています。算数の計算や、国語の読み書きといった基本的な学力を小さいうちから学ぶことで、将来、社会に出ても役立つ力が身につきます。授業以外にも、部活動や運動会や、文化祭など、協力して行う活動が豊富です。みんなで一緒に準備し、協力して目標を達成することで、チームワークや助け合いの大切さが自然と身につきます。
よく外国人に驚かれることの一つに、日本の学校には掃除の時間があります。子どもたちが自分たちで学校をきれいにすることで、環境を大切にすることが育まれます。自分たちのことは自分たちで行う、こうした学びは日本独自のものであり、他の国にはあまり見られない特徴です。
これから、日本の教育について詳しく見ていきますので、楽しみにしててくださいね！

■思いやりを育む道德教育

「道德教育」というのは、日本の学校で特に大切にされている授業の一つです。日本では小学校から「道德」という時間があり、他人とどう接するべきか、思いやりや正直さなどを学びます。子どもたちが将来、社会で他の人と良い関係を築くためにも役立つ内容です。道德の授業では、例えば友達が困っているときに助けることや、自分がされて嬉しいことを他の人にもする、といった考え方を身につける機会があります。

私が実習を行っている小学校では、先生があるエピソードを使って「友達が転んで困っている時、どうするべきか？」といった場面を一緒に考える授業をしていました。ある子は、「優しく声をかけて手を差し伸べる」と答えたり、別の子は「周りの人にも知らせたけてもらう」と発言したりと、みんなが真剣に考えながら意見を出していました。こうした授業を通して、子どもたちは自然に他の人に優しく接することができるようになります。

道德教育は、日本ならではの教育の一つです。多くの外国の学校には、こうした「道德」を重要視した授業がないことが多いので、海外の方にとってはとても新鮮に感じられるでしょう。道德の授業を通して、子どもたちは「どうすればお互いに気持ち良く過ごせるか」を学び、それを自然に日常生活でも実行するようになります。実際、思いやりの心が育つことで、教室の雰囲気も良くなり、友達同士の信頼関係も深まります。

また、この授業で学んだことは大人になってからも役立ちます。社会に出てからも、他の人と協力し合うことや、相手の立場を考慮することができる人になることは、仕事や生活をより良くするために大切なことです。道德教育は、子どもたちが「優しさ」や「他の人への思いやり」を持つための大事な一歩となるのです。

■基礎学力をしっかりと育てる教育

日本の教育では、子どもたちが小さいころから「基礎学力」をしっかりと身につけることが大切にされています。基礎学力というのは、計算や読み書きのような、日常生活でも必要とされる基本的な力のことです。日本の小学校では、特に算数や国語の授業に多くの時間をかけて、しっかりと基礎力をつける指導が行われます。この学びを通して、子どもたちは将来、さまざまな場面で役立つスキルを自然と身につけていきます。

まず、算数では基本的な計算力を身につけるために、四則計算（足し算、引き算、掛け算、割り算）を繰り返し練習します。これにより、子どもたちは数字を使いこなす力を確実に鍛え、生活の中で計算に困らない基礎力をつけます。また、文章問題を解くことを通して、数の扱ただけでなく、問題を読み解く力も養います。これらの学びは、中学・高校での数学や科学の学習をスムーズに進める土台となり、将来の仕事や生活にも役立ちます。

国語の授業では、文章の読み書きや内容の理解を重視します。最初にひらがな、カタカナ、基本的な漢字の読み書きを習い、少しずつ文章を読んで理解し、自身の感想をもつ力を育てます。たとえば、物語を読んだ後に感想を書いたり、登場人物の気持ちを考えたりする活動を通して、表現力や思考力が身につけていきます。また、漢字を学ぶことで読解力が上がり、他の教科を理解するスピードも高まります。こうした国語の基礎力があると、日常生活や仕事でも文章を正確に読み解く力がつき、円滑なコミュニケーションがとれるようになります。

基礎力をしっかりと育てる日本の教育は、子どもたちが将来、さまざまな場面で自信を持って活躍するための支えとなり、社会での成功の土台を築く大きな力となっているのです。

■チームワークを大切にしている集団行動

日本の学校では、特に「集団行動」を大切にしています。集団行動とは、みんなで協力して一つの目標に向かって活動することです。日本の学校には、クラス全員で行う行事や活動が多く、子どもたちはこの中で自然に「協力する力」や「チームワーク」を学びます。例えば、運動会や遠足、文化祭といったイベントでは、子どもたちは役割を分担して一緒に準備を進め、当日は全員が力を合わせて楽しみます。こうした活動を通して、みんなで目標を達成する喜びを感じることができるのです。

私が実習で参加した運動会の準備では、子どもたちがチームを組み、リーダーが中心になって意見を出し合いながら、演技や競技の練習を進めていました。ある子は「この案が良いんじゃない？」とアイデアを出し、別の子は「その案でいこう！」と、そのアイデアに答えていました。みんなが意見を尊重しながら一つの目標に向かう姿に、協力の大切さを学んでいるのだと感じました。

こうした集団行動は、日本ならではの教育文化であり、外国の方にはとても興味深いかもしれません。日本の学校では「一人ではできないことも、みんなでなら達成できる」という考え方が大切にされていて、集団行動を通じて、他人を思いやる気持ちや助け合いの精神が自然に身につくようになっていきます。また、これによりクラスメイト同士の絆も深まることで、学校生活がより楽しいものになっていきます。

さらに、この「協力する力」は、子どもたちが将来社会に出たときにも役立ちます。仕事や家庭、友人関係でも、周りの人と協力し合いながら過ごすことが求められる場面が多いからです。集団行動を大切にしている日本の教育は、子どもたちが社会の一員として成長していくための大事な基礎となっています。日本の学校で育まれるこの「チームワーク」は、日本人が社会で協力し合う文化を築いてきた背景にもつながっているとと言えるでしょう。

■個性を伸ばす部活動

日本の学校には、放課後に「部活動」があります。部活動とは、日本の学校で放課後に行われる活動で、生徒が自分の興味や関心に合わせて、スポーツや文化活動に参加する場です。日本の学校には、多くの種類の部活動があり、例えば、サッカー部、テニス部、野球部、吹奏楽部、書道部、茶道部などがあります。

このように、スポーツや音楽、芸術などさまざまな部活があるため、学生たちは自分の好きなことを見つけやすいです。部活動では、毎日練習を重ねたり、定期的に試合や発表会に参加したりするため、続けることで目標を達成する喜びや努力する大切さを学ぶことができます。

放課後になると、多くの子どもたちは部活動に熱中し、それぞれの目標に向かって努力を重ねます。たとえば、サッカー部やバスケットボール部の生徒たちは、友達とチームを組んで毎日一緒に練習し、試合での勝利を目指して励んでいます。文化系の部活動では、吹奏楽部や演劇部の生徒たちが発表会の成功を目標に、日々真剣に練習を続けています。

部活動は友人と一緒に活動することで、学校生活がより楽しいものになります。また部活動を通して、共に目標に向かって努力する仲間が増え、深い友人関係が築かれます。日本の学校での部活動は、子どもたちがチームワークやリーダーシップを身につける場でもあり、社会に必要な力を育てる一環となっています。たとえば、試合や発表会で負けた時の悔しさや、その後努力して成果を出した時の達成感は、子どもたちの成長にとってとても大きな経験です。

日本の部活動は、外国の方にも新鮮に感じられる文化の一つでしょう。部活動を通して得た経験は、大人になってからも役に立つことが多いです。部活動は、子どもたちの個性を育て、自分の好きなことに挑戦する場として、大切な役割を果たしているのです。

■自分たちで環境を守る掃除の習慣

日本の学校には「掃除の時間」が設けられており、子どもたちは自分たちで学校の教室や廊下、トイレなどを掃除します。掃除の時間は、多くの場合小学校から高校まで続き、学校生活の中で習慣化しています。この掃除の習慣は、ただ場所をきれいにするだけではなく、「みんなで使う場所を大切にする」という意識を育てるための教育の一環です。掃除を通して、子どもたちは「責任感」や「協力する力」を学びます。

掃除の時間になると、子どもたちはほうきや雑巾を使って、それぞれの担当場所をきれいにします。教室や廊下、トイレなどに分かれて、各自が自分の役割を果たしながら掃除を進めていきます。この掃除の時間には特別な指導者がいるわけではなく、生徒たちだけで行われるため、友達と協力して掃除を終わらせる必要があります。これによって、自然とリーダーシップやチームワークが身につく、環境を大切にする意識が育まれます。

この掃除の時間は、日本の学校ならではの特徴であり、外国から来た方にとっても驚きの文化の一つでしょう。多くの国では、学校の掃除は専門のスタッフが行うため、生徒が掃除をする機会は少ないのが一般的です。しかし、日本では掃除の習慣が大切にされ、子どもたちは自分たちが使う場所を自分たちできれいにすることを学びます。この習慣は、大人になっても役立つ「きれいに保つ意識」や「環境を大切に作る心」を育てるために大切なものとされています。

さらに、掃除の時間を通して、子どもたちは「相手への思いやり」も学びます。みんなが使う教室やトイレをきれいにすることで、次に使う人が気持ち良く過ごせるようにという意識が自然に育ちます。掃除は、自分自身のためだけでなく、他の人のために行うという考えを学ぶ大切な時間でもあるのです。こうして、日本の学校で身につけた掃除の習慣は、子どもたちが社会に出てからも役立つ「協力」や「責任感」を養う場となっています。掃除の時間を通して育まれるこうした心の成長は、日本の教育が大切にしている部分です。

■日本の教育で得られるもの

日本の教育を通して、子どもたちは学問としての知識だけでなく、将来社会で役立つ多くの力を身につけます。日本の学校では、勉強することだけが目的ではなく、人との関わり方や協力することの大切さ、思いやり、そして忍耐力なども同じように大切にしています。これらは学校生活を通して自然と身につけていき、社会に出たときに大きな力となります。たとえば、日本の教育では「思いやり」を大切にしています。道徳の授業で学んだことが、友人や職場での人間関係を良くするための基礎となります。誰かが困っている時に手を差し伸べられる人は周りからも信頼されやすいです。また、部活動や集団行動の中で身につく「協力する力」や「チームワーク」は、仕事やプロジェクトで大きな成果を生み出します。日本の学校で育まれた協力の精神が、将来の社会での円滑なコミュニケーションに繋がるのです。

基礎学力は、社会に出てからも日常生活や仕事での理解力を支え、よりスムーズに物事を進める力となります。掃除の時間に身につけた「環境を大切にすることの意識」も、社会に出た後も生活環境を清潔に保とうとする習慣として続き、周囲からも評価される要素になります。

今回は、日本の教育の良いところとして、「道徳」「基礎学力」「集団行動」「部活動」「掃除」の5つを取り上げました。

日本の教育で学んだこうした力は、大人になっても役立ちます。学校は、単に知識を学ぶ場ではなく、子どもたちが社会の一員として周りの人と協力し、思いやりを持って過ごすための力を養う場でもあるのです。この力が、豊かな人生の基盤となることでしょう。

「日本の教育の良いところ5選」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

